自由民主党同志会新報

発行所
自由民主党同志会
発行人 佐藤　寛
編集人 赤羽祐広
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-28
相互永田町ビル8 0 1号
電話 03(5521)1755　FAX 03(3581)5300
毎月末日発行　購読料1か年　12,000円
(更新日7月)　銀行　郵町支店　普通/0001111786

巨額ボーナスの「AIG問題」に我が国の政治を見る
底流には「同じものがある」と福田会長が喝破!!

国民参加あってこそ政治の質は高まるものだ

アメリカ国民の怒りが頂点に達した、巨額の救保険大手アメリカン・インターナショナルグループ（AIG）の幹部らに巨額なボーナスが給付されたことに対する（その後、アメリカ政府は課税強化で回収に乗り出すことになった）。

それにしても、巨額な公的資金を受けながら、同社は幹部一人へに総額18億円ものボーナスを支給したというのだ。

AIGが行日の事態に至った経営陣の見通しの甘さ、危機管理の無さ、昨今のわが国の政治家を原因として、現在、給付人たちの不満が、問題となっている。

政治による巨額な税金投入などの不満が、政治に対する不信感を増幅させる。

「AIGに回収、残念」

「AIGに回収、残念」と発言した人たちが、自分の発言に責任を取れるのか？

「国民の求めること」、さらに不安、国の将来などを事前に察知して、物事に先手を打ってやるのが政治家の仕事、と思います。

政治家は、物事を事前に察知する感覚を養う必要があります。

と同時に国民は政治家に対して、物事に先手を打ってやるのが政治家だ、と期待する権利は持っているのです。

政治家は、政治家、政治家、政治家、と言うのは、国民は政治家に決して政治家ではなく、政治家、と言うのは、国民は政治家に決して政治家ではなく、政治家、と言うのは、国民は政治家に決して政治家ではなく

古い土建政治にどっぷりの小沢民主党代表

国民とは対極に居座る小沢代表が掲げる「国民側に立った政治」の嘘

古い体質をそのまま引き継いだ政治家

小沢民主党代表の公設第一秘書が逮捕――起訴された。容疑は政治資金規正法違反だが、検察は何やら「隠し玉」を持っているようで、この事件は単発の形式犯で終わる様相ではない。何しろ日本の最強の捜査機関、東京地検特捜部。今後の捜査の行方は注目される。それはそれとして、今回の「西松事件」は、国民を一層の政治不信に陥れたのは間違いなく、小沢民主党の罪は重い。

責任を果せない代表に党内足並みも乱れがち

はたして国民の政治不信は払拭できるか

蜂の節切の23日は、自由民主党小沢代表の公設第一秘書の大久保隆規氏が、政治資金規正法違反の容疑者を逮捕したのである。この容疑は政治資金収支報告書の虚偽記載だが、詳しい内容はまだ明らかにされていない。

「西松建設は、建設業界近辺の政治献金の中心的存在であることを次第に明らかにした。

「大型工事はずべて小沢一郎事務所の意向が反映される。小沢事務所に献金を拒否する会社があれば、その『資格』を問われる。それは下請け業者も同じです。

いずれにしても、小沢代表側は東京地検特捜部だけではなく、ゼネコン側の献金目的の工事の受注高は桁違いである。つまり、西松建設の大沢代表側へ、ゼネコンの裏金が流れていたのである。

しかし、その後小沢代表の資金管理団体・陸山会をめぐる違法献金事件は、きわめて悪質であることが次第に明らかになった。

「西松建設は、『指名業者』に指名されるとゼネコンの献金を強要していたことが明らかにされた。いわば建設業界の『ボス』的存在だったのである

緊急保証制度の闇を斬る

小紙が追及を続けている「緊急保証制度」――現場ではまったくといっていいほど機能していないのが実態だ。取材の結果、そこには保身に走る金融機関の姿が浮びあがったが、その金融機関の融資を保証する信用保証協会の現実も露骨なものだ。

「一体、保証協会は何のためにあるのか」。様々のどぶろくだ。様々な書類を要求したうえで、次には「これをもってこい」、さらには「あれだ」――とにかくイライラ。そうなるとつい、最後にはこうなる。

「お前、俺を誰だと思っているんだ！」

小紙が追及した「緊急保証制度」とは、創業七年未満の中小企業が対象で、中小企業経済対策の一環として、平成一六年度から実施されたものだ。

中小企業の資金を優先的に確保する目的で、政府が打ち出した「緊急保証制度」は、その象徴的なものだが、実際の運用は、政府の意図に反して、殆ど機能していないのが実情だ。

そこで、取材を進めていくと、その原因が制度そのものにあるのではなく金融機関であることが明らかになった。

それでは、緊急保証制度を悪用した金融機関の手口とは、どんなものか

日本の社会保障
変わる医療、変える医療 ④

効率性や医療の観点でよい介護は期待できない

～医療と介護の隔たりを取り去ることはできるか～

政府は追加の経済対策へ向けて大きく舵を切った。なかでも雇用対策は大きな柱となるだけに、医療と介護による雇用創出案が打ち出されている。医療と介護の連携はたいへん重要だが、そこに大きな隔たりがあることも事実だ。

医療と介護は本質的に相異する

医療と人間の壁崩壊時代、促進などに関して行われる行為など完結される、病気のやりハリテーションも含め、私たちは医療というものをこう設定している。

一方で介護はどうか。日本で介護という言葉が使われ出したのは、そう古くことはない。もともと家族が国で、少子高齢化や核家族化となっている、形態はどわさるを得なくなってきている。そのなかで、次第に社会や国が保障、介護という言葉が定着してきた。

しかし、ここに医療と介護の相違がある。介護は受ける側にとって、介護の現場が理解しようとしない現場が現状である。

医療は、医師、看護師、コ医療の現場、医療の現場、医療の知識を医療の現場、医療の現場、医療の現場、